

## 管理栄養士・栄養士の勤務中のエネルギー消費量について

梅原頼子・乾陽子・福永峰子・山田芳子

近年、がん、心臓病、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病が、国民の健康問題の大きな課題となっている。これらの疾患の発症と進行を防ぐためには、生活習慣の改善、中でも食生活改善が重要であり、栄養指導に求められる知識や技能は、高度化かつ専門化している。

このような状況の中、平成 12 年 3 月、栄養士法の一部改正が行われ、これまで「複雑または困難な栄養の指導等」とされていた管理栄養士の業務について、「傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導」「個人の身体の状態、栄養状態等に応じた高度の専門知識および技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導」「特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状態、栄養状態、利用の状況等に応じた特別の配慮を必要とする給食管理およびこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導」が明文化され、より高い資質が求められるようになった。

特に、従来の「物」に視点をおいた考え方から、「人」に視点を置いた考え方が求められ、保健医療サービスの担い手として、管理栄養士がその役割を十分に発揮するためには、高度な知識および技能を持った、質の高い管理栄養士養成を行う必要があり、カリキュラム等の改正がなされた。私たち、栄養士養成施設の教育内容もより高めていく必要がある。

栄養士免許は、厚生労働大臣の指定した栄養士養成施設において 2 年以上栄養士として必要な知識および技能を習得した者に対して与えられ、管理栄養士免許は、管理栄養士国家試験に合格した者に対して与えられる。本学は、2 年制の栄養士養成施設であり、卒業して栄養士の免許を受けた後、厚生省令で定める施設において 3 年以上の栄養の指導に従事した者は、管理栄養士国家試験の受験資格が得られる。このような過程を経て、本学食物栄養専攻の卒業生は、毎日の業務に追われながら管理栄養士国家試験に挑戦し、毎年数名が合格している。

私たち栄養士養成施設の教育指導内容は、栄養士の即戦力として、また、目標である管理栄養士の資質や能力に大きな影響を与えるため、栄養士養成施設の教育指導内容と栄養士業務の実状に求められるものとはかけ離れていないことが重要だと考えている。

そこで、「傷病者に対する療養のため必要な栄養の指導」の業務に就いている管理栄養士、また、将来管理栄養士となる栄養士の実情を把握するために調査を行った。その中でも、いち早い個別指導の充実、全国の駅弁や名物・郷土料理を取り入れた 1 週間に 1 度の特別献立の実施、文化・栄養・運動の 3 つのキーワードを盛り込んだ遠足の会の実施など、患者さんに対して充実したサービスがなされ、さらに、研究方面では、平成 12 年第 42 回日本病院学会で会長・学会長賞を受賞、平成 13 年度三重県栄養改善大会で知事表彰を受けている Y 病院の管理栄養士と栄養士の勤務中の消費量について比較を行ったので報告する。